金の輸出解禁は 將來の輝やき

一時の苦痛あるも忍べ

わが國が、金の輸出を禁止したのは、大正六年であつて、丁度歐洲の大戰が、戰ひたけなはであり、歐洲の交戰諸國が、米國に對し參戰をしきりに勸誘し、米國もつひに、決意して歐洲の大戰に參加した年であつた。國家金の

輸出禁止 は、のびのびに延びて、輸出を禁止してから本年にいたるまで、十二年間も繼續してをるのである。歐洲の大戰によつて、世界で金の輸出を禁止した國は、數十ケ國にも達したが、これら金輸出禁止國は、大正八年に輸出禁止の禁を解いた米國を魁として、大方その禁を解いてしまつた。輸出禁止を解かない國としては、日本を加へた數ケ國に過ぎないのであつて、第一流の強國をもつて認るものとしては、たゞ日本の一ケ國が、ひとり取殘されて、依然として金の輸出を禁止してをるのみである。歐洲大戰中には、凄い勢ひで金儲けもし、成金國であつたところの日本が、いまだに金の輸出を禁止してをるといふことは、大口をたゝけないほど情ないことであつて、あの

歐洲大戰 によつて、あの絕大の傷をうけ、再起のほどを疑はれたドイツでさへも、夙くの昔しに金の輸出禁止を解いてをるのである。ベルギーも解き、イタリーも解き、またフランスも昨年にいたつて、金の輸出解禁を決行したのであつた。眞つ先きでなくとも、ドイツとか、ベルギーとか、イタリーとか、またフランスとかに、金の輸出解禁が、後れるなどとは、いかにも一流國として恥かしい事柄であるが、事實はいかんとも爭ふことが出來ない。しかし過去のことは、過去のこととして言つて詮ないことである。後れたりといへども金の輸出解禁は、どうしても決行せねばならない。金本位制度を、常道にひき戻さねばならない。わが國が依然として、金の輸出を禁止してをるがために

國民經濟 はいつまでも正道を踏んで立つて行くとが出來ない。金の輸出禁止は戰事中の一時的非常手段に過ぎないのであつて、平常時にもなほ、これを續行してをるといふことは、邪道を歩いてをるといふより外ないのである。邪道を歩いてをると、種々とその財政經濟の上に、弊害あるを免れぬことになる。爲替相場が低落して、その變動常なきは、邪道の甚だしきものであらねばならぬ。しかも金の輸出を禁止して、邪道を踏んでをる間は、爲替相場の動搖はいかんともすることが出來ないのである。であるから金の輸出禁止は、出來るだけ速かに解除して、正道に復すべきであるが、さて正道に復して、金の輸出解禁といふことになると、その實行は容易なことではない。容易なことでなかつたら、輸出禁止してからこのかた

十二ケ年 そのまゝである。正道に引返すべきものだとは、いふ迄もなく承知してゐるのであるが、濱口内閣は「余り遲からざる中に」金の輸出を解禁するといふことを、内外に聲明してをり、その準備に努めてをる。金の輸出解禁を愈よ斷行することになれば、いよいよ財界はその影響を受けて、あるひは不景氣の度を、層増すやうなことになるかも知れぬ。しかし今は、この不景氣の度を増すことのあらうをおそれて、金の輸出解禁をさらに延ばすべきではない。延ばせば、延ばすだけそれだけ、輸出禁止のための惡い影響を受けねばならず、このまゝでは、財界の立て直しなどといふことは、夢にのみ見得る事柄であるからである。

財界立直 しであるから、一時の苦痛位これを忍んで、將來望みある財界に復することを求めねばならぬ。要するに、經濟界の根本的立直しを圖る考へにおいて、金の輸出を解禁せねばならぬ。そのために受くる一時の苦痛に對しては、寧んでこれに堪へ忍ぶ覺悟が必要であり、これを堪へ忍んでこそ、將來希望に輝かやく經濟界に復することが出來るのであつて、代價としてもその苦痛のごときは將來のかゞやかしさに比して、まことに些少であるといはねばなるまい。

濱口首相演說

濱口首相は先週「經濟難局の打解について」と題してラヂオ放送演說を試みました、左記はその一節であります

濱口首相

□

貿易の前落と同様に、産業上、貿易上非常に困りますことは、爲替相場の亂高下といふことであります。金の輸出が、自由でありますれば、國と國との間の貸借關係が平均を失はれたとき、金貨を外國に輸出することによつて、自然爲替相場の亂高下といふことは起らないのでありますけれど、金の輸出を禁止して仕舞つて、この自然の調節が行はれなくなりますと、國際貸借の平均を失ふにつれて、爲替相場は、非常に亂高下をするに至るのであります。爲替相場の前落の上に、さらに亂高下といふことが二重になつて參りましては、就業者は、安心して外國貿易に、從事することが出來ませぬから、到底貿易の振興を望むことは出來ないのであります。したがつて産業の發達を期することは、出來ないのであります。そこで各國とも、その際に堪へることが出來ぬので、政府も、國民と協同一致して、一大決心をもつて、政府は財政の整理緊縮を斷行し、國民もまた、これに共鳴して非常な消費節約を行ひ、物價の下落、貿易の改善、爲替相場の安定を圖り、爲替相場が、漸次回復するやうに仕向けますと、金輸出解禁の準備に全力を擧げまして、その準備が出來ますると、米國は大正八年六月に、英國とオランダとは大正十四年四月に、フランスは昭和三年六月に、それぞれ金の解禁を斷行いたしました。

□

わが國におきましても、金の輸出を禁止いたしました結果、財政が膨脹して已まないといふこと、國民の消費が殖へないこと、相俟つて、物價の不自然なる騰貴を招き、爲替相場の急激なる變動を來し、爲に外國貿易は、あたかもいたその發達を妨げられ、これがため、一般事業の基礎を不安ならしめ、久しきに亘つて、經濟界の不安なる不景氣や困窮をきたしたのみならず、外國に對する、帝國の信用を失墜いたしましたことは、今日お互ひが、痛切に感じてをるところであります。したがつてわが國經濟界の前途を打開し、その立直しをするが爲には、金の輸出禁止を解除して、速やかに、財界の安定を期することが、何よりも急務であるといふことは、天下何人も異議のないところであると存ずるのであります。

□

政府は、この現狀にかんがみまして速やかに金の輸出解除をするといふ決心をいたしたのでありますが、吾々は輸出解除準備のために絕大な努力を拂はなければならぬのであります。外ではありませぬ、準備と申しまして、詰り政府においては、一大決心をもつて財政の緊縮、公債の整理を行ふことであり、國民一般においては、これまた大なる覺悟をもつて、あるひは事業の整理を行ひ、あるひは消費の節約をなし、勤儉力行を勵むといふことに歸着いたすのであります。

□

政府の財政を緊縮し、國債の整理を行ふことが、金解禁の問題を離れても、是非行はなければならぬといふことは、申すまでもないことでありますが、金の解禁を行ふ爲には、このことが特に必要な要件であります。何となれば、政府の財政を緊縮し、國債を整理することによつて、通貨の膨脹を抑へて、物價の下落を促し、外國への輸出を盛んにして、外國からの輸入を防ぎ、もつて國際貸借の均衡を回復するの素地を作り、外國に對する日本の信用を高めて、爲替相場が、次第々々に回復するやうにいたし、もつて金の解禁によるところの、一時的惡影響を豫防すると同時に、解禁後において、長く財界の健實なる發達をなすことが出來るのであります。

□

しかしながら、獨り政府が自らの財政を緊縮するだけでは、到底その目的を達することは出來ませぬ。政府の一年間に使ふところの金は、卅七八億といふ大なる金額でありますけれど、國民全體の使ふ金に比較いたしますれば、九牛の一毛に過ぎませぬ。そこで國民一般は、この政府の政策に共鳴して、一大決心をもつて消費を節約し、勤儉力行を勵むことによつて、初めてこの金解禁の大目的を圓滿に達成することが出來るのであります。

□

世間には、金の解禁を行ひますれば、如何にも財界に大變動が來るもののやうに誤解をいたし、杞憂を抱いてをる向があるやうでありますが、若しこの金の解禁といふことを、何等の準備なくして急激に行ひますれば、既に財政は、非常の混亂を惹き起すことは、これは免れ難いと思ひますけれども、充分の準備を整へまして、これならばいよいよ解禁を斷行いたしても差支へないといふところまで、官民一致の努力によつて、わが國の經濟界を導いておいて、それから解禁いたしまするならば、それこそ財界には、何等憂ふべき變動もなく、圓滑に解禁が行はれるのみならず、解禁後においても、貨幣制度を維持する上において、また財界の發達を期する上において、少しも心配するに及ばぬといふことを私は信じて疑ひませぬ。英國といはず、米國といはず、フランス、ドイツ、イタリーの各國においても、解禁の結果、財界に何等特筆すべき變動がなかつた。

□

また金解禁の準備として、財界を緊縮し、國民が消費の節約をいたしまする結果、物價は下落し、一層不景氣が濃厚になつて參つて、果ては大恐慌でも起りはせぬかと、心配する人もあるやうでありますが、成るほど緊縮節約の結果、一時は一層不景氣になるやうなことが、あるでありませうけれども、若し今日の狀態といふものを、このまゝに放任しておきましたならば、今日の不景氣は、ますます甚しくなるばかりでなく、いつになればこの財界は安定し、景氣が回復すべきか、全く見據えがつきませぬ。けれどもこの緊縮、節約、金解禁のために、起るところの不景氣は、これは一時的の不景氣でありまして、この一時的の不景氣を乘り切ることによつて、はじめて本當の景氣の回復が期し得られるのであります。言ひかへて申しますれば、今日のまゝの不景氣は、底の知れない不景氣であります。安定しない不景氣であります。前途暗澹たる不景氣であります。これに反して、緊縮、節約、金解禁によるところの不景氣は、底をついたる不景氣であります。安定したる不景氣であります。前途に光明を望んでの一時的の不景氣であります。すなはち財政の緊縮といひ、消費の節約といひ、勤儉力行といふことも、つまり將來、大いに伸びんとするために、一時屈するのであります。われわれは國民諸君と共に、この一時の苦痛を忍んで、後日の大なる發展を遂げなければなりませぬ。

□

私は、わが大和民族の偉大なる國民性に對して、全幅の信頼を置くものであります。わが國民は、鎖國三百年の夢を破つた、明治維新の大業を成就した偉大なる國民であります。西南戰爭以後、久しきに亘つて、混亂を極めたる貨幣制度を改革し、万難を排して、始めて今日の金本位制度を確立したるところの、光輝ある歷史を有する國民であります。われわれは明治廿七八年の戰爭以來、刻苦精勵、未曾有の國難を突破し、世界列強の班に列したではありませぬか。今を去ること六年前、曠古の大震災に見舞はれ、帝都を擧げ灰燼に化したるに拘らず、官民一致、努力奮鬪の結果、今や殆ど、帝都復興の大業を完成したではありませぬか。これら名譽ある歷史的事實を思ひ起し、かつはわれわれの目の前に横つてをる、光輝ある現狀を目睹する時に、何人かわが國民性の偉大なるに、驚嘆しないものがありませうか。かくのごとき名譽あり、光輝ある日本國民は、必ずやよく經濟的の國難に處して、金解禁を成功せしむるに至るべきは、私の心の底から深く確信するところであります。

日清汽船株式會社
本社　東京市麴町區有樂町一ノ一

資本金　壹千萬圓
火災保險
運送保險
森林保險
帝國火災
本店　東京市麴町區內幸町一ノ三
取締役社長　川崎肇

資本金五百萬圓
證券に關する一般業務
山一證券株式會社
本店　東京市日本橋區兜町
京橋營業所　東京市京橋區第一相互館
各地支店　大阪・名古屋・横濱・濱松　岡山・新潟・福島・京都